

# 農林水産商工常任委員会提出資料

(平成30年8月21日)

項目	ページ
1 雇用就農支援と学生確保の取組について 【農業大学校】 .....	1
2 鳥取県農業青年サミット2018 in ちゅうぶ(第57回鳥取県 農村青年夏のつどい)開催について 【経営支援課】 .....	2
3 第9回中海会議の開催結果について 【農地・水保全課】 .....	別紙
4 平成30年7月豪雨に係る農林業被害について 【とっとり農業戦略課】 .....	3
5 主要農産物の生産販売状況について 【生産振興課】 .....	別紙
6 鳥獣被害対策の取組状況等について 【鳥獣対策センター、食のみやこ推進課】 .....	4
7 公益財団法人鳥取県造林公社の経営改善計画の進捗について 【林政企画課】 .....	6
8 香港での鳥取すいか販売促進について 【販路拡大・輸出促進課】 .....	8
9 DINING OUT TOTTORI-YAZU with LEXUS の開催について 【販路拡大・輸出促進課】 .....	9
10 平成30年度「食のみやこ鳥取県」特産品コンクール審査結果に ついて 【食のみやこ推進課】 .....	10
11 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について 【農地・水保全課、水産課】 .....	12

農 林 水 産 部

## 雇用就農支援と学生確保の取組について

平成30年8月21日  
農 業 大 学 校

### 1 雇用就農相談会の開催

近年、非農家出身の学生の増加や雇用就農の希望者が多くなってきていること、併せて規模拡大を進める農業法人・農業者からの求人が増えてきている現状から、両者のマッチングの場として雇用就農相談会を開催し（年2回）、面談・情報交換を行っている。

近年の参加者は60事業者/年を超えており、学生・研修生への期待がうかがえる。また、学生は1年次から参加させ、事業者と直接話をして就農イメージを具体化する場としている。

本年度第1回相談会を7月19日に開催し、聞き取り調査を行ったところ、参加事業者の約8割が「農家留学などの研修受入れも可能」であり、新規就農者育成に向けた連携を一層深めていきたい。第2回相談会は11月に開催予定である。

【雇用就農相談会の参加事業者数と学生・研修生の就職者数】 (単位：人)

年度	H26	H27		H28		H29		H30	
		第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
参加事業者	15	16	19	29	36	26	36	36	
参加学生	15	20	39 (1)	48 (1)	64	36	42 (1)	57 (4)	
就職者数	1	7		10		7			

※参加学生は研修生を含む。

参加学生の( )は外部の求職参加者数 (H30 第1回の4名は日野高校生)。

### 2 オープンキャンパスの開催

養成課程の学生募集の一環として、高校生等を対象にオープンキャンパスを開催し（年2回）、学校説明・施設見学後、希望のコースに分かれて学生の指導による実習体験（農産物の収穫調整、トラクター・コンバイン操作、牛の世話など）を行っている (H30：7/24、8/21)。

7月24日のオープンキャンパスには3.5名（内県外者6名）が参加し、農業大学校を体感した。参加者からは「学生が生き活きと楽しそうで雰囲気が良い。」「農業のことが深く学べる。」などの意見が寄せられた。

進路選択に繋げるため高校と連携して、1年生、2年生からの参加を推進している（入学者の約6割がオープンキャンパス参加者）。

第2回オープンキャンパス（8/21）には9名（内県外者5名）が参加予定である。

【オープンキャンパスの参加者数と入学者数】 (単位：人)

年度	H26	H27	H28	H29	H30 (第1回)
参加者	38 (35)	41 (25)	36 (23)	37 (22)	35 (23)
入学者	16	15	12	15	—

※参加者の( )は3年生の参加者数（内数）。

# 鳥取県農業青年サミット2018inちゅうぶ(第57回鳥取県農村青年夏のつどい)開催について

平成30年8月21日

経営支援課

次代の農業を担う県内の農業青年、新規就農者が一堂に会し、青年同士のつながりを深めるとともに、お互いの農業に対する知識と技術のスキルアップを図り、経営の改善に資すること、農業者としての自信と誇りを培うことを目的として、「鳥取県農業青年サミット2018inちゅうぶ」を開催します。

## 1 開催テーマ

自分が農業で一番になりたいことは？ ～あなたの夢の実現方法～

## 2 開催期日

平成30年9月6日(木) 午後1時20分から午後5時10分

## 3 開催場所

北条農村環境改善センター(鳥取県東伯郡北栄町田井7-1) ほか

## 4 主催

鳥取県農村青年会議連絡協議会※、中部農村青年連合、米子地区農村青年会議連絡協議会、鳥取県

※2地区の協議会で構成され、会員数48名

## 5 後援

公益財団法人鳥取県農業農村担い手育成機構

## 6 参集範囲

県内農業青年、県内新規就農者、農業研修生、東伯地区指導農業士、県内関係機関・団体担当職員など

## 7 内容及び日程

時間	内容
13:00～13:20	受付
13:20～13:40	開会
13:40～15:10	講演「農業のライフプランについて」 農業経営支援研究所代表 木下 徹 氏
15:45～17:00	意見交換(数人のグループごと) 「自分が農業で一番になりたいこと ～あなたの夢とその実現方法～」
17:00～17:10	閉会式
17:45～19:45	夕べのつどい(懇親会)

### (参考)

- ・鳥取県農村青年夏のつどいは、鳥取県農村青年会議連絡協議会が主催となって、毎年度、開催しているものであり、今回で57回目を迎える。
- ・昨年度は、西部地区において開催し、関係機関・団体の関係者を含めて約100名が参加した。

# 平成 30 年 7 月豪雨に係る農林業被害について

平成 30 年 8 月 21 日

とっとり農業戦略課

平成 30 年 7 月豪雨に係る農林業被害について、以下のとおり取りまとめました。  
現在、7 月専決予算などを活用しながら、早期復旧に向けて取り組んでいます。

## 1. 農林業被害の概況

大区分	中区分	小区分	被害箇所等	被害額	主な被害内容
農業	農作物	水稻	17.20ha	18,000 千円	土砂流入による埋没等
		スイカ	1.27ha	12,360 千円	水分過多による裂果
		その他	0.83ha	3,583 千円	白ネギの土砂流入による埋没等
		小計	19.30ha	33,943 千円	
	農業施設	豚舎	2 箇所	600 千円	土砂流入による一部損壊等
	農地	農地(水田・畑)	229 箇所	353,450 千円	畦畔崩壊、法面崩壊等
	土地改良施設	農道	71 箇所	522,500 千円	法面崩壊、路肩崩落、倒木等
		水路	134 箇所	217,550 千円	土砂流入、法面崩壊等による水路閉塞
		頭首工	12 箇所	413,000 千円	仮復旧施設の流出、一部損壊
		その他	2 箇所	900 千円	農地保全施設の石積崩落等
		小計	219 箇所	1,153,950 千円	
林業	林道	林道	128 路線	1,040,979 千円	土砂流入、法面崩壊、路体流失等
	林業専用道及び作業道	林業専用道及び作業道	121 路線	125,900 千円	路面流失、路体流失等
総合計				2,708,822 千円	

## 2. 対応状況

### (1) 早期復旧等に向けた対策

白ネギやスイカ生産農家等の病害防除や農地・林道等の早期復旧に向けた速やかな対応を図るため、7 月 12 日、関連予算の知事専決を行った。

○緊急防除支援事業 10,000 千円

○農地・土地改良施設 150,000 千円

〔 国の耕地災害復旧事業及び国庫補助対象外の小規模な施設の災害復旧に要する経費を市町村へ助成する。 〕

○林道復旧対策 250,000 千円

〔 国の林道施設災害復旧事業及び国庫補助対象外の森林作業道等の復旧に要する経費を支援する。(現在、林業施業中の 8 路線については、9 月中に仮復旧する目途があった。) 〕

### (2) 国への要望活動

中国地方知事会を代表して平井知事より農林水産大臣へ緊急要望を行った。(7 月 10 日)

【主な要望内容】

- ・激甚災害の早期指定及び、災害査定の迅速化や円滑な実施。
- ・災害復旧事業及び災害関連事業予算の確保、さらには積極的な財政支援。

### (3) その他

復旧に係る人的支援として、県の林業技師を智頭町、若桜町、日南町へ派遣している。

## 3. 今後の対応

○農地・土地改良施設、林道等に係る復旧事業について、国の激甚災害指定が適用されるため、本格復旧に向けた所要経費を 9 月補正予算において検討する。

○県内全ため池の再点検を行い、12 月末を目処に点検結果をとりまとめる。

・防災重点ため池(85 箇所)：点検済

・緊急点検ため池(約 200 箇所)：下流の家屋や公共施設等に被害を与える可能性のある全ての農業用ため池について、県・市町・ため池管理者により 8 月末までに緊急点検を実施する(防災重点ため池との重複を除く)

・その他ため池(約 800 箇所)：県、市町、ため池管理者により点検

## 鳥獣被害対策の取組状況等について

平成30年8月21日  
鳥獣対策センター  
食のみやこ推進課

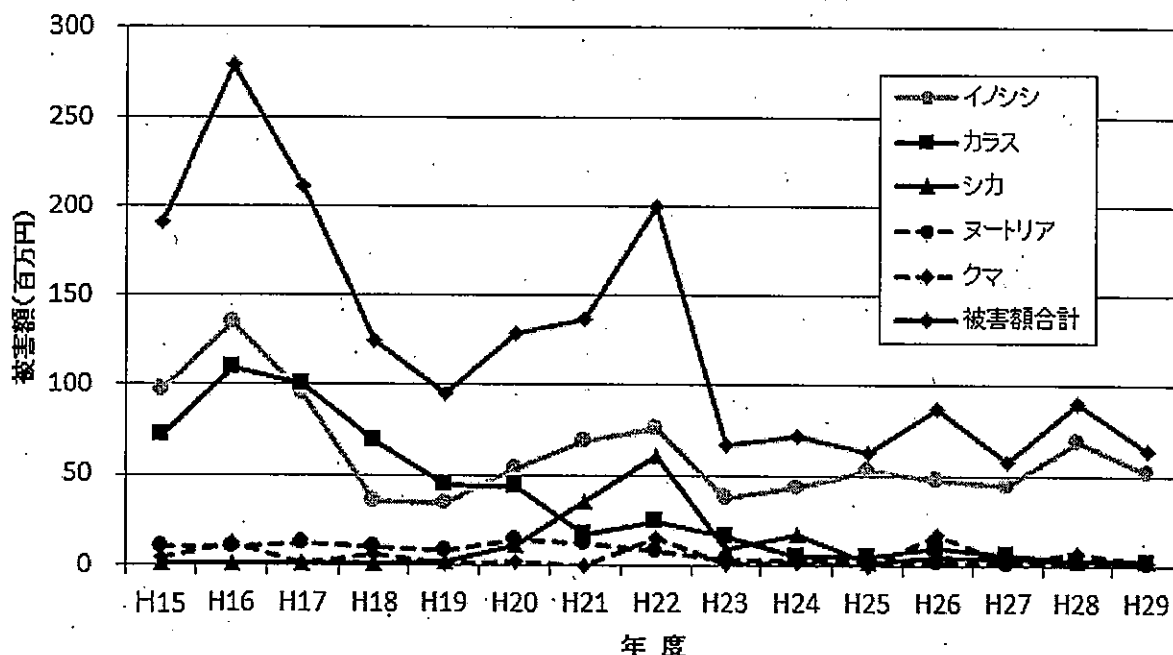
### 1 平成29年度の鳥獣被害状況

- 野生鳥獣による農作物等への被害額は、平成28年度の90百万円に比べて27百万円減少し63百万円であった。
- 堅果類（ドングリ）が豊作であったことから、イノシシ・クマによる水稲、果樹の被害が減少したと推察する。
- シカ被害は、水稲、ナシ、造林木について東部・八頭で発生していたが、中部でも発生した。

〈平成29年度における農作物等への被害額〉

鳥獣の種類	被害額（千円）			主な被害作物 （被害額の割合）	被害状況
	H29	H28	前年比		
イノシシ	51,015	69,232	74%	水稲(88%)、梨(5%)	被害は減少したが、県下全域で発生。
カラス	1,723	2,606	66%	梨(47%)、野菜類(45%)	県下全域に被害が半減。
シカ	3,017	2,368	127%	水稲(58%)、梨(17%)、 造林木(17%)	被害は東部・八頭が中心であるが、中部でも発生。
クマ	1,248	6,830	18%	梨(99%)	被害は減少したが、東部・八頭の梨に発生。
ヌートリア	673	1,230	55%	水稲(79%)、野菜類(16%)	被害は減少したが、中部を中心に県下全域で発生。
アライグマ	235	0	—	—	東部で被害が発生。
その他	5,411	7,636	71%	—	アナグマ、サル、タヌキ、サギ類等による被害が発生。
合計	63,322	89,902	70%	—	

〈鳥獣による農作物等被害額の推移〉



年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
被害総額(百万円)	191	279	212	124	95	129	137	200	67	72	63	87	58	90	63

(鳥獣対策センター集計)

## 2 イノシシ、シカの捕獲数の推移、ジビエ等への活用

- 平成29年度の捕獲数は、イノシシ約5,600頭（対前年度比47%）、シカ約6,700頭（対前年度比92%）であった。
- イノシシの捕獲数は、冬期の積雪が少なかったことによる狩猟捕獲の減、平成28年度の捕獲（過去最高）の影響により減少したと推察する。
- シカの捕獲数が近年増加している主な要因は、生息域の拡大及び生息数の増加、猟期内外でも捕獲奨励金を交付していること等に加え、平成25年度から国の緊急捕獲等対策事業により捕獲活動経費が支給されたこと、平成27年度から実施している指定管理鳥獣捕獲等事業により捕獲体制を強化した効果が大きい。

年度		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
イノシシ	有害捕獲	2,654	2,475	4,565	2,809	3,535	4,705	5,900	6,351	9,347	4,269
	狩猟捕獲	2,079	1,348	3,431	1,918	1,510	2,268	2,441	2,020	2,623	1,314
	計	4,733	3,823	7,996	4,727	5,045	6,973	8,341	8,371	11,970	5,583
シカ	有害捕獲	263	845	2,031	2,398	2,390	3,587	5,646	5,370	4,149	3,846
	狩猟捕獲	328	435	1,707	2,785	1,076	1,404	822	528	951	1,034
	指定管理								199	2,174	1,827
	計	591	1,280	3,738	5,183	3,466	4,991	6,468	6,097	7,274	6,707

（緑豊かな自然課集計）

- 捕獲されたイノシシ・シカのうち、ジビエ等として利用されるため解体処理された頭数は、3,036頭となり、過去最高を記録した。解体処理頭数の増加、捕獲頭数の減少に伴い、利用率（解体処理頭数/捕獲頭数）は24.7%と大幅に増加した。

区分	捕獲頭数(頭)	解体処理頭数(頭)	利用率(%)
イノシシ	5,583 (11,970)	833 (1,124)	14.9 (9.4)
シカ	6,707 (7,274)	2,203 (1,824)	32.8 (25.1)
計	12,290 (19,244)	3,036 (2,948)	24.7 (15.3)

（注）・カッコ内は平成28年度

（食のみやこ推進課集計）

・利用率＝解体処理頭数（※）/捕獲頭数

※食肉（ジビエ）、ペットフードとして利用されるため解体処理された頭数

## 3 平成30年度の鳥獣被害対策の取組状況

現場に密着した鳥獣被害対策に取り組むため、鳥獣対策センターでは、被害防止技術の実証・普及、人材育成、鳥獣被害情報の収集・提供等に取り組むとともに、侵入を防ぐ対策（侵入防止柵の導入等）、個体数を減らす対策（捕獲奨励金等）、周辺環境整備対策（緩衝帯の整備等）を柱に補助事業を行っている。

（単位：千円）

事業名	主な事業内容	県予算額	事業主体	補助率
鳥獣被害総合対策事業 （県単独事業）	① 侵入を防ぐ対策 ・侵入防止柵の設置等	92,465	市町村 農協等	県 1/3
	② 個体数を減らす対策 ・有害捕獲実施 （捕獲班員の活動費） ・捕獲奨励金交付 （イノシシ・シカ等）			
	③ 集落づくり推進支援対策 ・集落点検の実施等		市町村	県 1/2
鳥獣被害防止総合 対策交付金 （国事業）	〈ソフト〉 ・捕獲機材の導入 ・周辺環境の整備 ・実施隊の活動費	124,580	地域協議会	国 1/2以内等 周辺環境の整備は県 1/4嵩上げ
	〈ハード〉 ・侵入防止柵の設置 ・処理加工施設等の導入		地域協議会 （市町村等 を含む）	国 1/2以内 （自力施工は定額）
	〈ソフト〉 ・シカ有害捕獲の活動経費支給		市町村 地域協議会	定額
県推進事業		5,205	—	—
計		222,250		

## 4 兵庫県、岡山県との連携活動

ニホンジカの個体数削減を図るため、兵庫県、岡山県と連携して10月を捕獲強化月間と設定し、特に県境域の奥山部（重点実施区域）のニホンジカの捕獲を推進することとしている。

# 公益財団法人鳥取県造林公社の経営改善計画の進捗について

平成30年8月21日  
林政企画課

平成25年2月に策定された公益財団法人鳥取県造林公社の「経営改革プラン（H25～96年）」を基にした同公社の「第1期経営改善計画（H25～34年）」の進捗状況を報告します。

## 1 経営改善計画の進捗状況

### (1) 利用間伐の状況

- ・平成29年度の利用間伐については、実施面積は312haと計画を上回っており、また、搬出材積は、21.8千m<sup>3</sup>と、ほぼ計画と同じ状況。
- ・計画がスタートしてから期間の半分（5年間）が経過したが、利用間伐の実施面積及び搬出材積の5年間の合計実績は、いずれも計画を上回っている。

#### 【利用間伐の計画及び実績】

項目		H25	H26	H27	H28	H29	小計	H30～34	合計
面積 (ha)	改善計画	109	120	160	210	270	869	3,413	4,282
	実績	127	161	250	213	312	1,064		
	実績/計画	117%	134%	156%	101%	116%	122%		
材積 (千m <sup>3</sup> )	改善計画	6	9	13	17	22	67	283	350
	実績	6.4	13.6	23.9	19.9	21.8	85.5		
	実績/計画	107%	151%	184%	117%	99%	128%		

### (2) 収支の状況

#### 【平成29年度の収支】

- ・収入計989百万円に対して、支出計は1,040百万円となり、51百万円の赤字となった。
- ・この主な要因は、立木の生育の悪い条件不利の施業地が多く、効率的な事業ができなかったことによる。

#### 【5年間（平成25～29年度）の収支】

- ・収入計4,565百万円に対して、支出計4,584百万円で、19百万円の赤字となり、当初計画（マイナス1百万円）より赤字幅がやや広がった。
- ・ただし、造林公社の、直接事業部分の収支は、前半で効率的な搬出が可能な施業地を確保できたことにより、当初計画では250百万円のマイナスが、55百万円のマイナスに縮小することができた。

#### 【鳥取県造林公社の収支の状況】

##### 全体の収支

(単位:百万円)

区分		H25	H26	H27	H28	H29	計	
収入	事業収入（間伐材等立木売却収入、立木補償等）及び補助金等収入（国補事業、単県事業、基金事業）①	計画	260.2	250.2	295.6	360.7	454.0	1,620.7
		実績	285.6	534.6	624.9	502.6	661.9	2,609.6
		実績/計画	109.8%	213.7%	211.4%	139.3%	145.8%	161.0%
	その他の収入② (借入金、利子助成等)	計画	452.5	407.2	379.8	335.8	303.4	1,878.7
		実績	451.0	449.9	391.4	335.9	327.3	1,955.5
		実績/計画	99.7%	110.5%	103.1%	100.0%	107.9%	104.1%
収入計(①+②)		計画	712.7	657.4	675.4	696.5	757.4	3,499.4
実績	736.6	984.5	1,016.3	838.5	989.2	4,565.1		
実績/計画	103.4%	149.8%	150.5%	120.2%	140.6%	130.5%		
支出	直接事業費（造林施設費、保育費等）及び管理費（人件費、事務費）③	計画	362.2	321.1	353.0	392.9	441.3	1,870.5
		実績	331.2	549.5	573.3	531.5	673.7	2,664.2
		実績/計画	91.4%	171.1%	162.4%	135.3%	153.8%	142.4%
	その他の支出④ (日本政策金融公庫への償還金・利息等)	計画	350.5	336.2	323.2	303.6	316.0	1,629.5
		実績	406.0	421.5	415.6	315.8	361.6	1,920.5
		実績/計画	115.8%	125.4%	128.6%	104.0%	114.4%	117.9%
支出計(③+④)		計画	712.7	657.3	676.2	696.5	757.3	3,500.0
実績	737.2	971.0	988.9	847.3	1,040.3	4,584.7		
実績/計画	103.4%	147.7%	146.2%	121.7%	149.4%	131.0%		

##### 直接事業部分の収支

(単位:百万円)

区分		H25	H26	H27	H28	H29	計
事業収入及び補助金等収入 — 直接事業費及び管理費(①-③)	計画	▲102.0	▲70.9	▲57.4	▲32.2	▲12.7	▲249.8
	実績	▲45.6	▲14.9	51.6	▲28.9	▲13.8	▲54.6

## 2 今後の対応方針

(1) プラン上では、概ね5年毎に進捗状況や社会情勢の変化を踏まえた経営見直しを行うこととなっていることから、H25～29年度までの実績等を踏まえて将来の経営見通しの見直しを進め、本年度中にプランの見直しや経営改善に向けた取組を検討する。

具体的には、公社造林地の周辺森林と一体となった路網整備、架線系集材の実施、各事業者による担い手確保などを通じて、コストダウンを図り、生産性の向上を目指す。

(2) 経営改善の課題と対応

[課題] 生産性の向上

・造林公社の施業地は、比較的生育の良い林分の間伐が一巡し、生育の劣る林分の間伐へ移行。林分材積が減少する中で、搬出材積も低下し、奥地化や、飛び地等、条件不利地の増加や労務単価の上昇も加わり事業収支は伸びなかった。

<搬出材積の低下>

H26:83 → H27:92 → H28:93 → H29:70 (単位;m<sup>3</sup>/ha)

<搬出経費の上昇>

H26:14,903 → H29:16,351 (単位;円/m<sup>3</sup>)

※労務単価の上昇が主な要因

H24(プラン):10,800 → H29:13,800 (普通作業員 単位;円/日)

[対応] 効率的施業の推進

- ・初回の搬出間伐において、2回目以降の間伐においても利用できる、崩れにくい路網を整備する。
- ・遠方の施業地では、周辺森林の所有者の協力を得て効率的な路網整備を進め、搬出困難な施業地では、タワーヤーダーなど架線の活用に取り組む。
- ・さらに、日南町や八頭町で始まった森林のレーザー航測の成果を活用するなどにより、正確な資源量の把握や、効率的な路網設計、迅速な所有境の決定等、更なる低コスト化を推進する。
- ・素材生産量増大のために必要となる各事業体の人材の確保は、国や県の「緑の雇用」新規就業者育成推進事業等を活用し、引き続き着実に進めていく。

(3) 県単独での要望活動や全国の林業公社を有する府県で組織する森林県連合での要望活動などを通じ、経営改革プラン実現のために必要な制度改正等を、国に対し要望していく。

<国への要望内容>

- ・造林公社に対して県が行う利子補給及び無利子貸付に係る利子負担分についての特別交付税措置(現行1/2)の継続及び拡充



# 香港での鳥取すいか販売促進について

平成30年8月21日  
販路拡大・輸出促進課

平成28年度から開催しているイオンストアーズ香港での鳥取岡山観光物産展が好評であることを受け、本年度もすいか、梨(二十世紀)、シャインマスカット、ペニズワイガニなど旬の時期ごとに継続的な県産農水産物の輸出販売を行う予定であり、この度、その第一弾となる「鳥取すいかフェア」を次のとおり開催しました。

## 1 香港でのすいかの販売状況

### (1) 輸出数量

・大玉 3L:200玉、2L:1,800玉 計2,000玉  
※平成29年度:大玉2,556玉、小玉100玉

### (2) 輸出数量の推移

平成30年	平成29年	平成28年	平成27年	平成26年	平成25年
15.5t	20.3t	17.8t	13.1t	13.8t	3.5t

### (3) 販売店舗

・イオン香港11店舗

## 2 鳥取すいかフェア

### (1) 販売期間

平成30年7月12日(木)～7月25日(水) 14日間

### (2) 販売形態

1玉での販売のほか、カットすいか定着を図るため、プラスチックバッグ等に入れて販売提供した。  
販売サイズ及び売価: 1玉 279HK\$ (約4,100円)、1/2カット 149HK\$ (約2,200円)、  
1/4カット 75HK\$ (約1,100円)、1/8カット 39.9HK\$ (約580円)、  
1/12カット 26.9HK\$ (約390円)

### (3) 販売促進イベント(JA全農とっとり・鳥取県)

ア 実施期間 平成30年7月13日(金)～7月15日(日)  
イ 実施店舗 AEON STYLE 康怡(イオンスタイルコーンヒル店)  
ウ 実施内容

#### (ア) 販売促進イベント【ヨーヨー釣り・スーパーボールすくい】

参加人数: 一般来場者計604名(各回70名、1日210名限定)

参加賞: ヨーヨー、スーパーボール、すいかポケットティッシュ、10HK\$割引券

#### (イ) 参加者への割引実施【イベント参加者にすいかを購入いただく仕掛け】

イベント参加者(割引券を持っている人)が鳥取すいかを購入する場合、レジで値引きする。

#### (ウ) 鳥取県観光PR

食、まんが、観光パンフレットをイベント参加者へ配布し、誘客に繋げた。

### (4) 成果

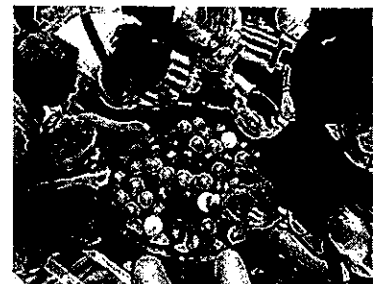
- ・好評につき用意したすいか2,000玉は完売した。
- ・特にカットすいかの売れ行きが好調であった。



すいか販売の様子



カットすいか



イベント実施の様子

# DINING OUT TOTTORI-YAZU with LEXUS の開催について

平成30年8月21日  
販路拡大・輸出促進課

県では、DINING OUT(奇跡の晩餐:2日間だけオープンするプレミアムな野外レストラン)の開催を誘致し、食のみやこ鳥取県の様々な食材や星取県などの自然、伝統文化等を全国から来訪したお客様に知っていただくとともに、その様子をメディアにより全国に発信します。

DINING OUTは2012年以降、これまで全国各地で13回開催されていますが、今回は、メインシェフに鳥取出身の徳吉洋二氏を迎え、シェフの故郷で開催する「凱旋」ダイニングアウトでもあり、前日に地元のお客様等を対象とした「DINING OUT TOTTORI-YAZU LOCAL DAY」も初めて開催します。



## 1 DINING OUT TOTTORI-YAZU with LEXUS 概要

### (1) 開催日程

9月8日(土)、9日(日) 2日間限定

### (2) 募集人数

各日程40名、計80名(1泊2日のツアーとして7/20からJTBで販売。ツアー代金約16~20万円/人)

### (3) 開催地

鳥取県八頭町内(場所は非公表:参加者も会場に着くまで分からない)

※宿泊地:羽舌温泉、三朝温泉 翌日は鳥取市~岩美町で紙漉き体験ほかのツアーに参加する。

※当日は集合場所(鳥取空港等)~会場~宿泊地へはレクサス車両で送迎する。

### (4) 出演

料理人:徳吉洋二(とくよし ようじ) 鳥取県出身・ミラノのミシュラン星付きレストラン「Ristorante TOKUYOSHI」シェフ  
ホスト:アレックス・カー(東洋文化研究家) サービス統括:大橋直誉(おおはし なおたか) (レストランプロデューサー)

### (5) 開催主体

主催:(株)ONESTORY オフィシャルパートナー:LEXUS、YEBISU  
オフィシャルサポーター:鳥取県 協力:八頭町

## 2 期待される効果

### (1) メディアへの露出による食のみやこ鳥取県、伝統文化、自然等の観光資源を全国発信

・DINING OUT開催により次のメディアへの露出が確約している。

BSジャパンでのドキュメンタリー番組制作「奇跡の晩餐」(1時間番組)、食雑誌「料理通信」、ライフスタイル雑誌「pen」、地域PR雑誌「Discover Japan」など。

・その他WEBや報道を通じた情報発信を実施する。

### (2) 地元の人材育成、観光資源の再発掘等

世界で活躍するトップシェフ等と県内シェフ、サービススタッフ、生産者等が協働して作り上げるイベントであり、一流サービスの体験による人材育成、地域の魅力の再発見、開催ノウハウの地元への蓄積が図られる。

また、レクサス車両での送迎は鳥取ハイヤー共同組合の協力を得て、鳥取観光マイスターの資格を取得した鳥取県内タクシー各社の乗務員等が行う。

## 3 参考 (DINING OUT TOTTORI-YAZU LOCAL DAY 開催概要)

世界的に活躍する徳吉洋二シェフの地元への「凱旋」の趣旨を踏まえ、シェフの料理を地元の皆様に味わっていただくためのローカルディを実施する。

### (1) 開催日程:9月7日(金)

### (2) 募集人数:40名

### (3) 開催地:鳥取県八頭町内(DINING OUT TOTTORI-YAZU with LEXUS と同会場)

### (4) 開催主体

主催:(株)ONESTORY 協力:鳥取県、八頭町

協賛:(株)エミネット、enetopia(鳥取ガス(株))、(有)岸田牧場、(有)徳吉薬局 (H30.8.10 現在)

### (5) 販売:8月10日(金)13:30からJTBで販売(WEB購入可)。販売価格3万円

※レクサス送迎、ホスト等による総合演出はなく、鳥取駅、郡家駅からのマイクロバスによる会場送迎となる。

# 平成30年度「食のみやこ鳥取県」特産品コンクール審査結果について

平成30年8月21日  
食のみやこ推進課

本県産の農林水産物を主原料とした加工食品や本県産農林水産物の特徴を活かした加工食品の中から、優れた商品を表彰・PRすることにより、新商品の販路開拓等を促進することを目的として、「食のみやこ鳥取県」特産品コンクールを開催したので、その結果を報告します。

## 1 審査結果

- (1) 最優秀賞 ○事業者名：株式会社エコファームみなか  
商品名：打ち豆のやさしいごはんシリーズ  
(打ち豆と雑穀のやさしいごはん、  
打ち豆とさつまいものやさしいごはん)  
講評：鳥取県産の有機大豆を「打ち豆」という形で、県産米とブレンドした商品。1食分がパックされ、手軽に調理できることから、料理が苦手な若い方が日本食に親しむきっかけにもなる。首都圏の専門家と連携して開発された「マーケットイン型」の商品で、洗練されたパッケージも特徴。
- (2) 優秀賞 ○事業者名：菓子工房 シェル・プール  
商品名：とちの実ダックアイス  
○事業者名：株式会社日本海フーズ  
商品名：はたはた南蛮漬け  
○事業者名：金田屋・かねちく  
商品名：マンモスの肉（とびうおの長イモ巻き）
- (3) 優良賞 ○事業者名：株式会社あかまる牛肉店  
商品名：鳥取和牛コンビーフ  
○事業者名：東亜青果株式会社  
商品名：大山そだち干し芋べにはるか  
○事業者名：ブライアンテック有限会社  
商品名：鳳梨（ほうり）パイナップルケーキ



## 2 審査会の概要

予備審査を通過した30商品（14事業者）の中から、平成30年7月26日（木）に審査会を開催して、品質（食味等）、パッケージ及び市場性を審査の上、受賞商品を選定し、8月17日（金）に表彰式を開催した。

審査委員：鳥取短期大学生活学科教授 松島 文子氏ほか8名

対象商品：3年以内（平成27年4月1日～平成30年3月31日）に開発・改良された販売商品

開始年度：平成20年度（今回で11回目）

## 3 受賞商品のPR等の支援

- (1) 最優秀賞受賞商品は、全国食品コンクール(優良ふるさと食品中央コンクール)へ県推薦商品として応募する。

＜近年の中央コンクール受賞歴＞



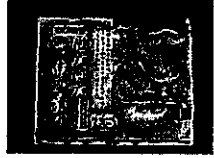


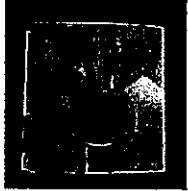
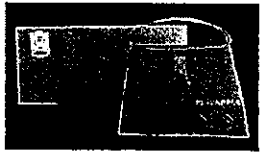
平成23年度農林水産大臣賞 「紅ずわいがにかにおこわ」(有限会社前田水産)

平成26年度農林水産大臣賞 「天女の梨クーヘン」(株式会社プレマスペース)

平成28年度農林水産省食料産業局長賞 「梨花 RINKA」(株式会社ホテルハーベストイン米子)

- (2) BSS ラジオ「食のみやこ鳥取探検隊が行く」コーナーで事業者生出演による紹介を優先的に実施する。  
(3) 県や商工団体等が主催する商談会等の案内を実施する。  
(4) 食のみやこ鳥取県フェスタ等の関連イベント、県のホームページ等で紹介する。

平成30年度「食のみやこ鳥取県」特産品コンクール受賞商品一覧

賞	事業者名	商品名	商品画像
最優秀賞	株式会社 エコファームみなか	打ち豆のやさしいごはんシリーズ 〔打ち豆と雑穀のやさしいごはん、 打ち豆とさつま芋のやさしいごはん〕	
優秀賞	菓子工房 シェル・ブール	とちの実ダックアイス	
優秀賞	株式会社日本海フーズ	はたはた南蛮漬け	
優秀賞	金田屋・かねちく	マンモスの肉(とびうおの長イモ巻き)	
優良賞	株式会社あかまる牛肉店	鳥取和牛 コンビーフ	
優良賞	東亜青果株式会社	大山そだち干し芋 ベにはるか	
優良賞	ブライアンテック有限会社	鳳梨(ほうり)パイナップルケーキ	

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

平成30年8月21日  
農地・水保全課  
水産課

【新規分】		主務課		工事場所	工事名	契約の相手方	契約金額	工期	契約年月日	工事内容	備 考
水産課 (西部総合事務所生活環境局)	水産課 (西部総合事務所生活環境局)	堺港市 昭和町	堺港市 昭和町	有限会社松本組 代表取締役 椋田 隆博	堺港市高良衛生管理型市 場整備事業6号上屋新築 工事(建築)	196,560,000円 (設計額 199,478,000円) 落札率 98.54%	平成30年8月3日 ～ 平成31年1月31日	平成30年8月2日	【工事内容】 6号上屋の建築及び防鳥対策工事 ○構造規模:延床面積 450.0㎡ ○上工事に伴う排水工事	制限付一般競争入札 2社 平成30年7月26日 開札	
【変更分】		主務課		工事場所	工事名	契約の相手方	契約金額	工期	契約年月日	工事内容	備 考
農地・水保全課 (中部総合事務所農林局)	農地・水保全課 (中部総合事務所農林局)	倉吉市 隅河内	倉吉市 隅河内	株式会社チュウブ 代表取締役社長 小柴 雅央	天神野地区地域ため池(中 尾原ため池)改修工事(そ の1)	(当初契約額) 160,812,000円  (第1回変更契約額) 175,639,320円 (変更額) 14,827,320円 (第2回変更契約額) 185,457,600円 (変更額) 9,818,280円	平成30年1月26日 ～ 平成30年10月9日    平成30年12月20日	(当初契約年月日) 平成30年1月26日  (第1回変更契約年月日) 平成30年3月13日  (第2回変更契約年月日) 平成30年7月12日	【工事内容】 ため池改修工事 堤体工 (11,224) V=11,305m <sup>3</sup> 掘削工 (12,815) V=12,965m <sup>3</sup> 盛土工 堤体改良工 V=3,914m <sup>3</sup> 取水施設工 底層工 L=87.5m 土砂吐グート工 1基 付帯工 1式 (-) ブロック積工 100㎡ 仮設工 工事用道踏設置撤去、水替工 1式		
<p>○変更内容 本工事中に、周辺からの湧水により堤体下流法尻が洗掘された。このため、不安定となっている堤体法尻を安定させるため排水ドレンとなるブロック積工をすることとして措置し、併せて工期を平成30年12月20日まで延期する。</p>											